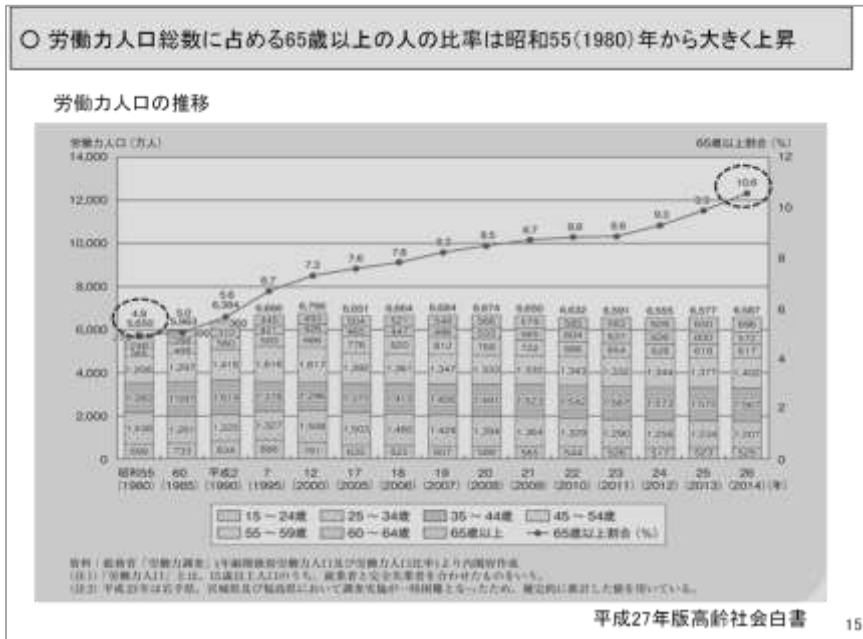


## ●高齢者の勤労意欲

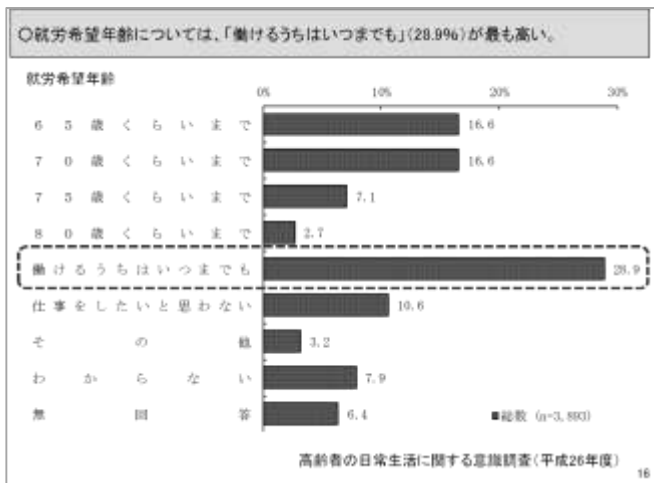
15ページ、労働力人口の中で65歳以上の方がどのぐらいの比率かというのを見たものです。グラフのほうでその比率を示しております。平成26年で65歳以上の方が労働力人口、つまり15歳以上人口の中で就業されているか、あるいは失業されているか、その両方を合わせた方、その中で占める割合が10.6%になっております。これも年々増えております。

<労働力人口の推移>

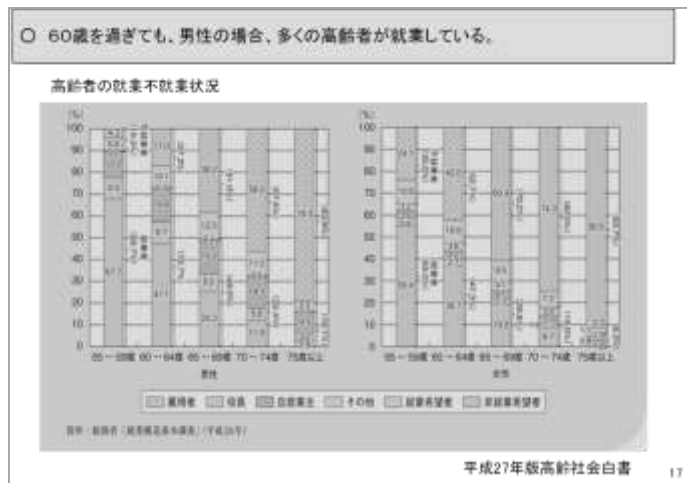


それから、高齢の方々の就労希望が何歳ぐらいを念頭に置いているかという意識調査をしましたところ、具体的に何歳までと答えていただく部分を選択していただいた方も少なくないんですけれども、働けるうちはいつまでもと答えてくださった方が約3割ということで、大変多くなっております。それから、実際にも60代以上の方でも、男女別に見ますと男性のほうが多いんですけれども、いずれにしても多くの方々に就業をしていただいているというのが現状でございます。

<就労希望年齢>



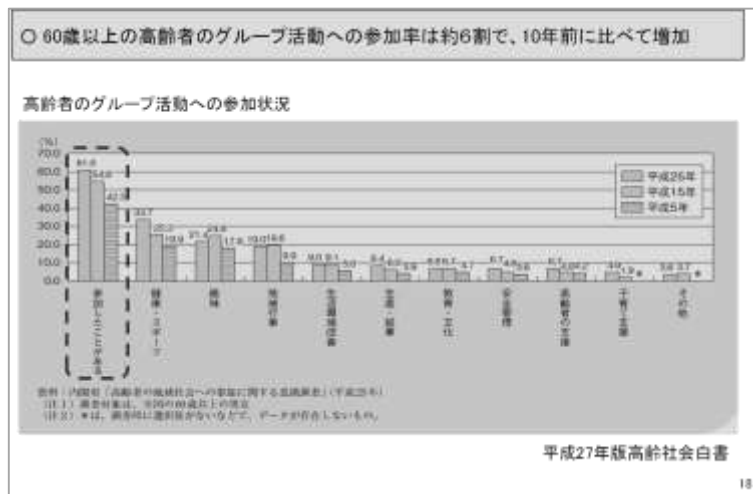
<高齢者の就業不就業状況>



## ●社会参加活動の意識調査

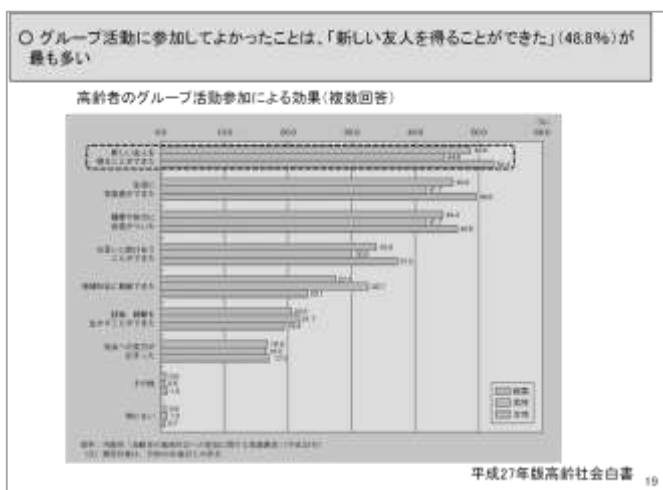
それから、この18ページ以降が社会参加活動関係の資料でございます。冒頭の審議官からの挨拶の中でも少し触れさせていただきましたけれども、高齢者の方々がグループ活動に参加していらっしゃる状況、あるいは、そのことについてどう感じているかということなどをお示しした資料です。今大体60歳以上の方々の中では、何らかのグループ活動に参加している方の割合というのは6割で、これも増加しております。

### <高齢者のグループ活動への参加状況>

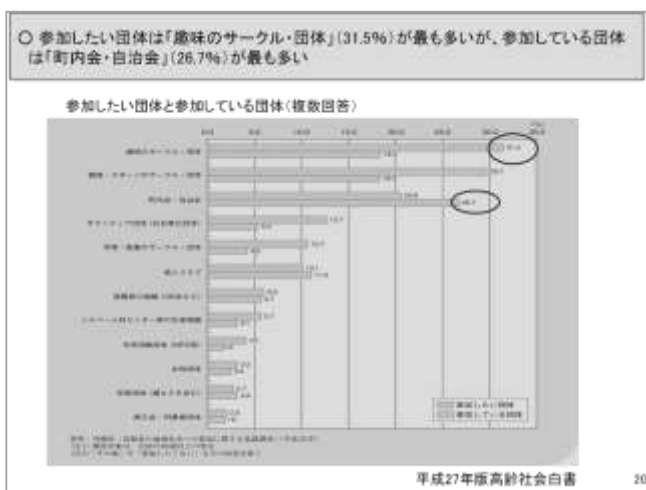


それから、参加してよかったという方については、どういうふうによかったのかお聞きすると、友人を新しく得ることができたとか、充実感ができた、健康や体力に自信がついたということを挙げてくださる方が多くなっております。具体的にどういう団体に参加しているのかというのを見ますと、参加している団体で多いのは町内会とか自治会なんですけれども、参加したいという団体については趣味のサークルですとか、健康・スポーツ関係のものを挙げてくださる方が多くなっております。その参加するに当たっての重視するポイントは、活動内容が自分の関心に合っていること、まずそこがポイントで、あと都合のよい時間が選べることとか、費用がかからないことなどを挙げる方が多いです。

### <高齢者のグループ活動参加による効果>

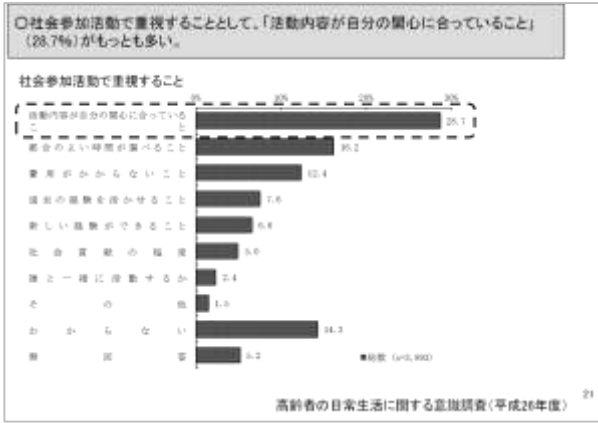


### <参加したい団体と参加している団体>



世代間交流の話もいろいろ先ほど来のお話の中で出ていましたけれども、若い方との交流をしていきたいと思っていられる高齢者の方、6割と多いです。この割合も平成15年、10年前と比べると多くなっております。

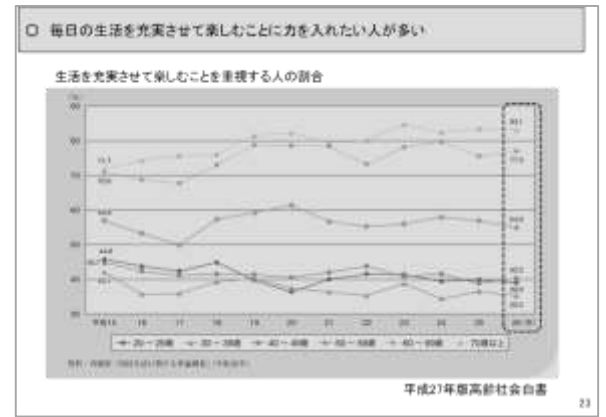
<社会参加活動で重視すること>



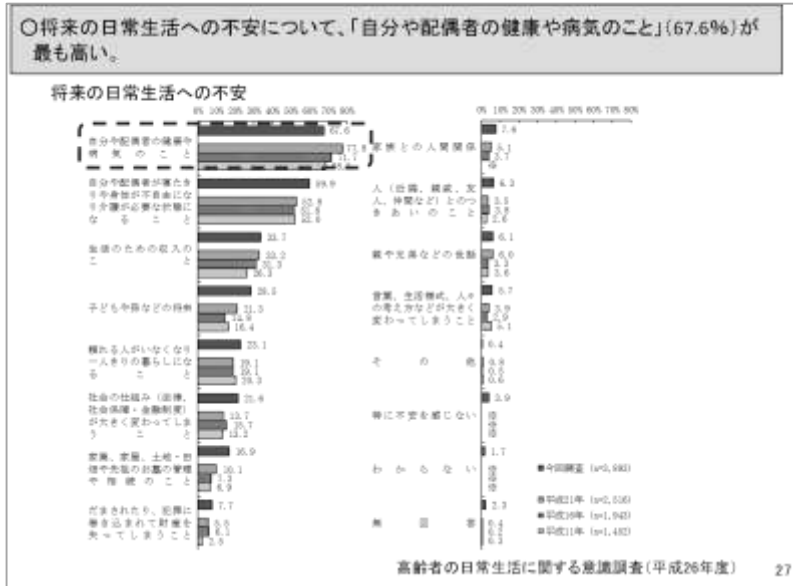
<若い世代との交流の機会の参加意向>



<生活を充実させて楽しむことを重視する人の割合>



＜将来の日常生活への不安＞



●エイジレス・ライフー 本年の事例から

それから、白書とは別なんですけれども、毎年私ども内閣府でやっているものとして、年齢にとらわれずに生き生きとした生活を送ってくださっている、それをエイジレス・ライフ実践者と言っているんですけれども、そのエイジレス・ライフ実践者と、それから団体の方々に、地域におきまして積極的に社会参加活動をしてくださっている団体、こういう団体、それから個人の方を毎年表彰させていただいております。

昨年度表彰させていただいた事例から、今回、資料に6つほど引用させていただきました。一個一個御紹介する時間がなくて恐縮ですが、この中にも高齢者の方と、若い、例えば子育てをしている方々との交流とか、お互いの支援をしている地域での事例がたくさんあるということの御紹介でもあります。是非こういうものをまた御参考にしていただければと思います。

また午後、パネルディスカッションを3つに分けさせていただきます。

これまでも皆さん、色々御支援いただいている方々ばかりだとは思いますが、皆様方の御活躍、それから御健康をお祈りいたしまして、簡単でございますが説明とさせていただきます。

どうぞ引き続きよろしくお願いたします。

＜平成27年度高齢白書における事例紹介＞

平成27年版高齢社会白書における事例紹介

### 「ニュータウンの高齢者宅へのホームステイ ～近隣大学による試み～」

- 高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯数が毎年増え、高齢者の孤立や希薄化した地域住民のつながりが社会問題となっている。そこで、高齢者と学生が同居することによって、高齢者の孤立を防止しようという取組。
- 愛知県春日井市の高専等ニュータウンの近隣にキャンパスをもつ中部大学が、地域活性化・学生共育をうたて、ホームステイなどの、ニュータウンの高齢者と中部大学の学生の交流事業を立ち上げた。
- ホームステイを行ったのは、平成25年に3世帯、26年に3世帯、3泊4日間の日程で、学生らは高齢者と一緒には老人クラブ活動等にも参加し、普段は行かない近所の美術館に足を運ぶ人もいた。

＜エイジレスライフ実践事例及び社会参加活動事例の紹介＞

### エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例の紹介

数年前では、平均寿命が男性で78歳、女性で82歳を超えており、高齢期においても、地域や人とのつながりをもたぬままに暮らした生活を送ることは、すべての人にとって重要な課題となっている。

このため、既に高齢期を迎え、又はこれから迎える世代の高齢期における生き方の参考にするため、自治体と連携して、エイジレス・ライフ/年齢にとらわれず生涯で生き生きとした生活を送ることを実践している者及び地域において社会参加活動を継続的に行っているグループを表彰し、広く紹介していく。

都道府県等による推薦

(平成26年度)

エイジレス・ライフ実践者 100名  
社会参加活動グループ 64団体

(注)

- ・認定NPOの社会貢献活動
- ・NPO等との連携活動
- ・NPO等との連携活動

内閣府による調査

(平成26年度)

エイジレス・ライフ実践者 65名  
社会参加活動グループ 32団体

●表彰対象者

- ・自治体等との連携活動
- ・地域での活動
- ・自治体等との連携活動

表彰・紹介

- 内閣府のホームページで事例を紹介
- 自治体ごとに表彰
- 「若人の日」(9月15日)関連のイベントで表彰等
- 若人の日(9月15日)に合わせて記者発表(ホームページ掲載、ローカルメディアへの情報提供等)
- 高齢社会フォーラム(地方開催)で一部の表彰とビデオ紹介

<平成26年度 社会参加活動事例（抜粋）>

事例	平成26年度 社会参加活動事例(抜粋)
	<p><b>クリエイティブワーク 北海道（北見市）</b></p> <p>社会福祉協議会に個人登録ボランティアに登録していた主婦たちにより結成されたグループで、趣味を通じた作品の販売による収益金の寄付や福祉施設への慰問等の活動を行っている。正式なボランティアグループとして発足する前の期間を含めると、およそ20年の活動実績があり、自分たちの居場所・役割を作り、生きがいを持ち、社会の一員として活動することで、地域福祉の推進役として貢献している。</p>
	<p><b>ゆうき子育て支援隊 茨城県（結城市）</b></p> <p>自らの子育て経験を活かした女性のみで構成されている団体で、少子化に歯止めをかけるために子育て支援として、公共施設を利用して、駅前子どもふれあい広場を月曜日から土曜日まで週に6日間開催し、その他にもエンジョイプレイルーム「ホップ」を毎週月曜に開催しており、育児している保護者の孤立化防止や未就学児童の異年齢児交流に生きがいを見出し、また、祖父母と接する機会が少ない核家族との世代間交流を図っている。</p>
	<p><b>入善町生涯現役めざし隊 富山県（下新川郡入善町）</b></p> <p>ボランティア養成講座の修了生により結成されたグループで、介護予防活動を推進する活動を行っている。介護予防のための体操や技術等の質の向上を目的とした会員相互の定例研修会を設け、介護予防教室の運営協力や出前講座としてレクリエーションや転倒予防体操を実施している。活動を広めるため、便利職や歌集を作成した。隊員の知恵とボランティア精神で入善町の介護予防活動を推進する大きな役割を担っている。</p>

30

<平成26年度 社会参加活動事例（抜粋）>

事例	平成26年度 社会参加活動事例(抜粋)
	<p><b>楽遊クラブ銀雅（神戸市）</b></p> <p>神戸市の高齢者大学である「シルバーカレッジ」の卒業生有志で構成するボランティア団体「グループわ」に所属するグループで、銭太鼓の客楽普及に貢献している。活動場所は高齢者福祉施設から児童館等と幅広く、知的障害者施設への支援も行っている。</p> <p>他都市の同様団体との交流も盛んに行い、海外交流にも取り組みながら銭太鼓に加えて南京玉簪・鍋蓋踊り等を合わせて行うことにより、活発に地域交流を行っている。</p>
	<p><b>相互支援クラブ 島根県（安来市）</b></p> <p>小学校や幼稚園からの授業支援の要請に対し、学校支援を円滑に行うため老人クラブ内に組織されたクラブで、授業支援を中心とした活動を行っている。学校の授業内容に応じて派遣し、実施後全員で反省会を行い、その結果を学校・幼稚園とも共有し、資質向上を目指している。活動は17年を超える長きに渡り、地域に根ざした活動を行っており、地域福祉の推進に貢献している。</p>
	<p><b>長沼八幡宮 太々神楽保存会（一財）日本郵政退職者連盟（栃木県真岡市）</b></p> <p>昭和54年神楽の装束が新調されたのを期に、保存会が結成され、昭和58年長沼中学校の生徒に神楽の指導を依頼されてから、今年で31年間神楽の指導活動を行っている。学校と地域の連携を図りながら郷土の伝統芸能が継承できるよう、全員が一丸となってボランティアで継続的に生徒へ指導行っている。地元では、当保存会の長年にわたる取組が地域の青少年の健全な育成に大いに役立っているばかりで無く地域保存会の後継者作りに繋がっていると賞賛されている。</p>

31